

# 令和7年度 専門研修(断続研修) 保健体育研修講座プログラム

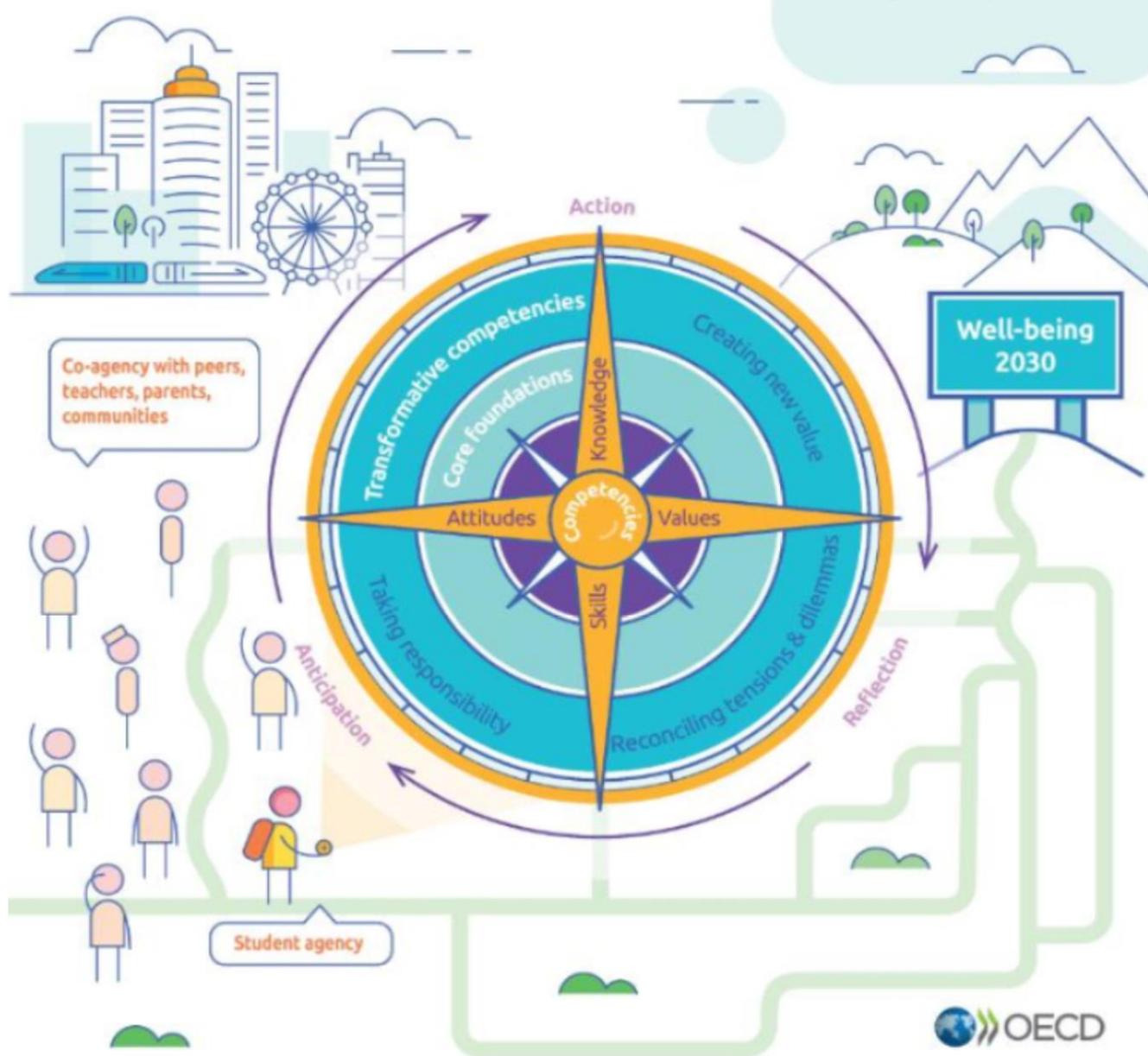
## 体育科・保健体育科授業の在り方について

福岡教育大学 教職大学院  
本多壮太郎

R7.5.13(火) 於 福岡県体育研究所

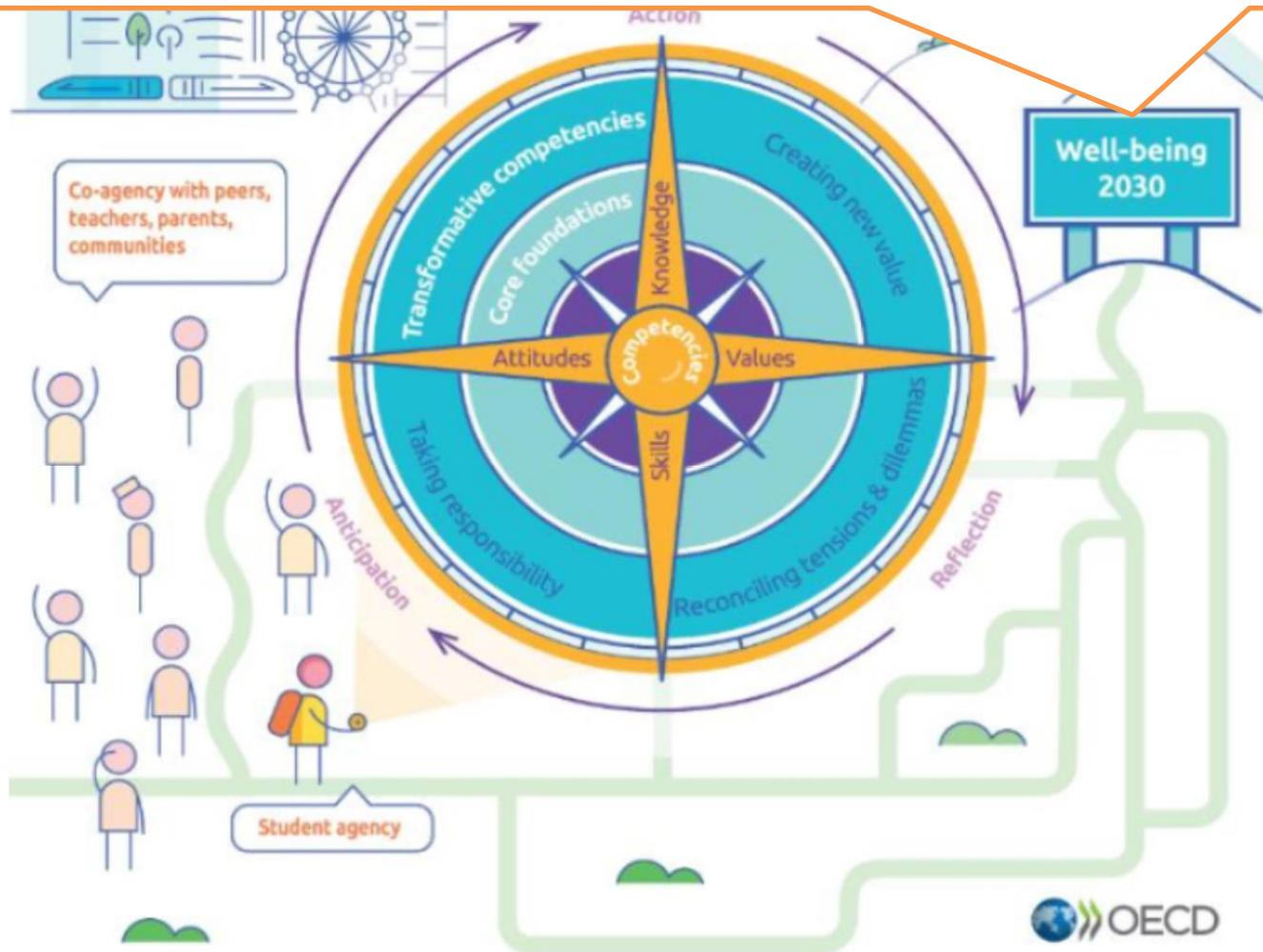
# OECD Learning Compass (学びの羅針盤) 2030

[OECD Future of Education and Skills 2030: OECD Learning Compass 2030 - YouTube](#)



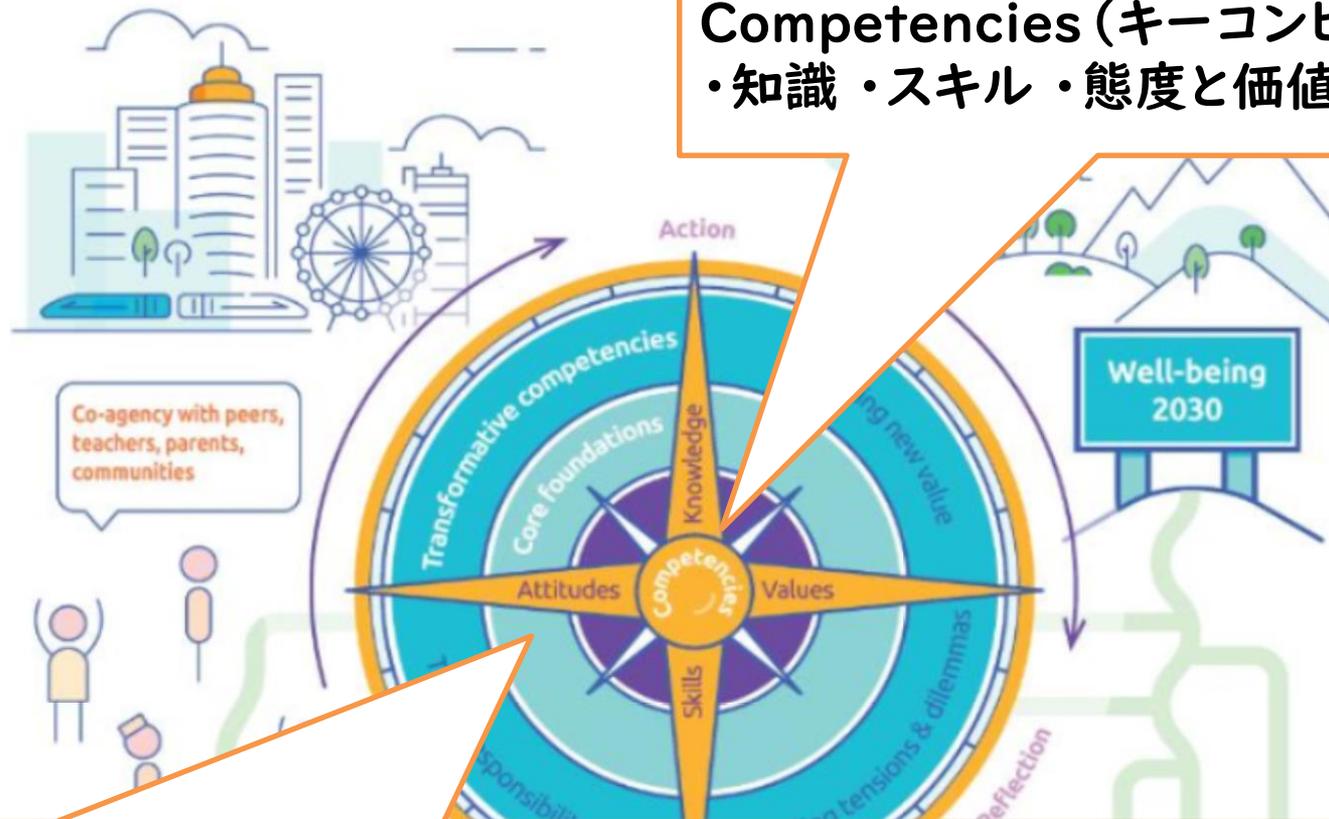
# OECD Learning Compass (学びの羅針盤) 2030

個人及び集団がよりよくあること、満たされた状態、  
幸せ、いきいきとした状態



(OECD, 2019a)

# OECD Learning Compass (学びの羅針盤) 2030



Competencies (キーコンピテンシー)  
・知識・スキル・態度と価値感

## Core foundations (学びの基礎・基盤)

- ・Literacy (読解力)
- ・Numeracy (数学的リテラシー)
- ・Data and digital literacy (データ・デジタル活用能力)
- ・Physical and mental health (身体的・精神的健康)
- ・Social and emotional foundations (社会的・情動的基盤)

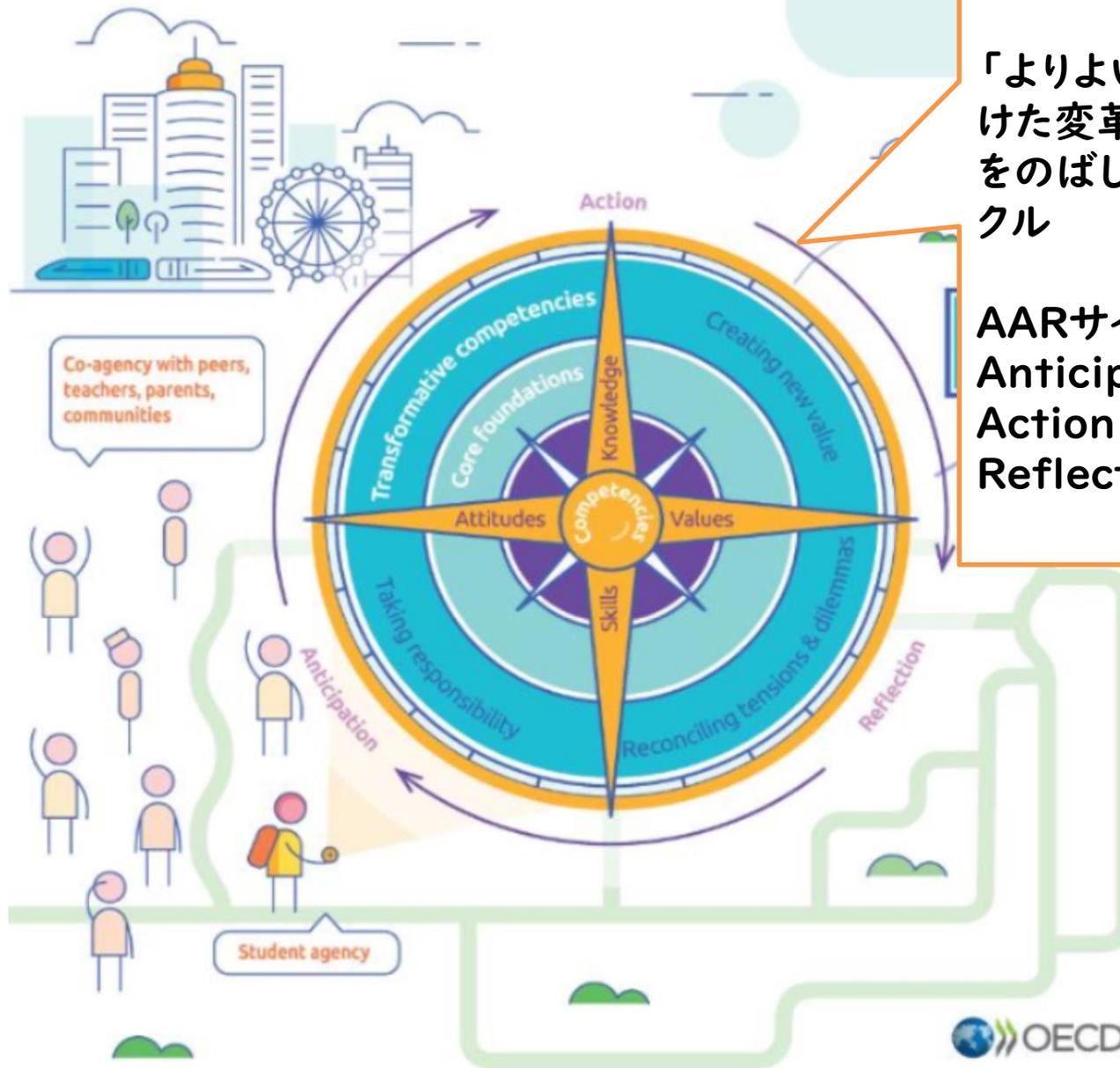
# OECD Learning Compass (学びの羅針盤) 2030



Transformative competencies (よりよい未来の創造に向けた変革を起こす力)

- Creating new values (新たな価値を創造する力)
- Reconciling tensions and dilemmas (対立やジレンマに対処する力)
- Taking responsibility (責任ある行動をとる力)

# OECD Learning Compass (学びの羅針盤) 2030



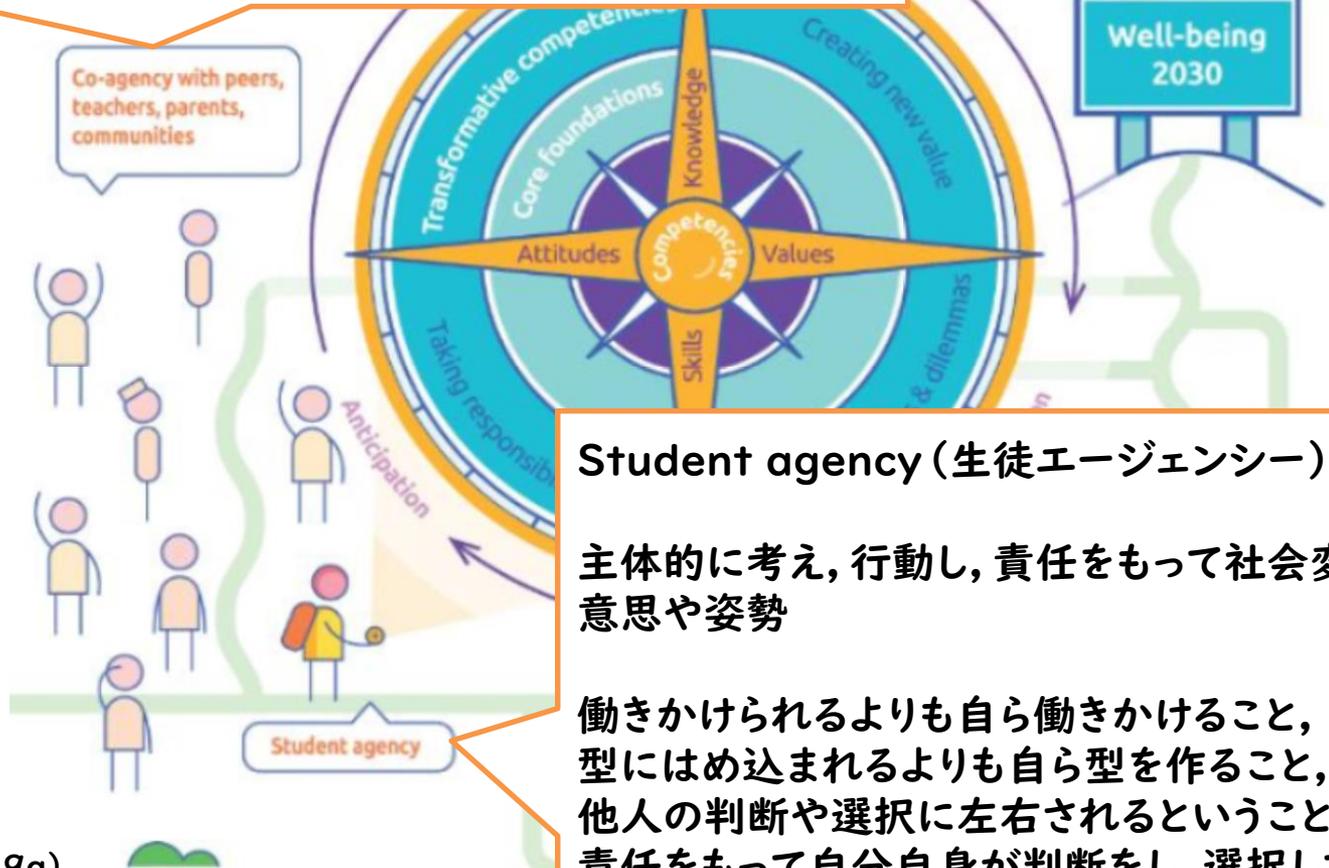
「よりよい未来の創造に向けた変革を起こしていく力をのばしていくためのサイクル」

AARサイクル  
Anticipation (見通し)  
Action (行動)  
Reflection (振り返り)

# OECD Learning Compass (学びの羅針盤) 2030

## Co-agency (共同エージェンシー)

生徒が共有された目標に向かって邁進できるように支援する、保護者との、教師との、コミュニティとの、そして生徒との双方向的な互いに支え合う関係



## Student agency (生徒エージェンシー)

主体的に考え、行動し、責任をもって社会変革を実現していく意思や姿勢

働きかけられるよりも自ら働きかけること、型にはめ込まれるよりも自ら型を作ること、他人の判断や選択に左右されるということではなく、責任をもって自分自身が判断をし、選択していくこと

# OECD FUTURE OF EDUCATION 2030

Making Physical  
Education Dynamic  
and Inclusive for 2030

INTERNATIONAL CURRICULUM ANALYSIS



オーストラリア, チリ,  
イングランド (UK), エストニア,  
日本, 韓国, ルクセンブルク, ノルウェー,  
オンタリオ (カナダ), ポルトガル,  
スコットランド (UK), スイス,  
トルコ, ウェールズ (UK), 中国,  
香港 (中国), カザフスタン, ロシア

## 2030年に向けた ダイナミックで インクルーシブな 体育への転換

(OECD, 2019b)

### 2019年10月公表

18カ国・地域における  
体育・健康教育のカリ  
キュラムや実践の状況,  
体育の生徒への影響  
等について比較, 報告

※全ての教科に先立って体育(健康  
教育含む)が検討対象に  
※OECDが体育を取り上げるのは初

# OECD Future of Education 2030

Making Physical Education Dynamic and Inclusive for 2030  
International Curriculum Analysis

OECD Education 2030プロジェクト

# 保健体育教育の 未来をつくる

OECDカリキュラム国際調査



経済協力開発機構(OECD) 編著  
日本体育科教育学会 監訳

明石書店



2023年10月

## Highlights

Physical and health education has the potential to become one of the cornerstones of the education of tomorrow that contributes to the holistic development of students, fostering the development of crucial competencies and the physical and mental health of students.

**体育及び保健教育は、生徒にとって  
不可欠なコンピテンシーの発達と  
生徒の身体的・精神的健康の育成を  
通して、全人的な成長に貢献し、  
これからの教育において重要な1つとなる  
可能性を備えたものである。**

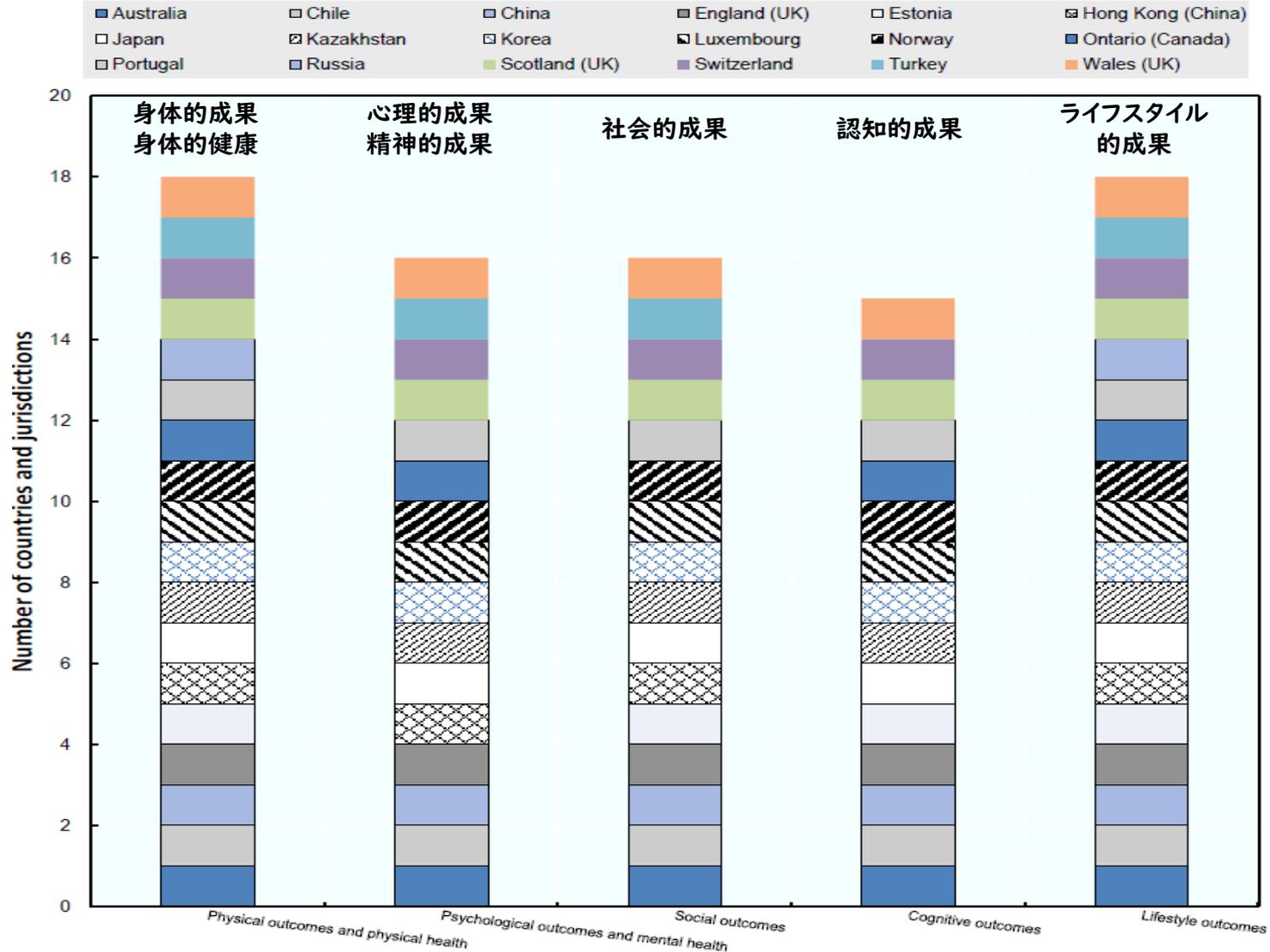
(OECD, 2019b: 12)

# 他国の体育(二昔前)

1	法的には大部分の国(92%以上)の義務教育段階で必修教科とされているが、 <b>体育の授業が政策通りに実施されておらず、非実施率が高い</b> (アフリカ75%, アジア67%, 中央ならびにラテンアメリカ50%, 南ヨーロッパ50%)。
2	カリキュラムに組み入れる教科としての位置づけについて約70%の国で、 <b>体育が持つ「アカデミックな価値」に対する疑念</b> が示されている。
3	保護者らは、体育の授業は <b>「気晴らし」</b> と捉え、スポーツのコーチでも実施可能だとの見解を示している。
4	教師が <b>「気まぐれ」な授業</b> を展開したり、 <b>学習活動を遠隔操作</b> することが多い。
5	教師に学習者の心理や授業方法に関する多くのバリエーションが準備されていない。いわゆる <b>「スポーツマスター(スポーツを積極的に行っているが、体育に関して公的な教育を受けていない)</b> のような人が多い。

# 体育・健康教育の主な目標 (OECD, 2019b: 42)

Figure 3.1. Main goals of the national physical and health education curriculum in participating countries and jurisdictions



Source: Education 2030 International Comparative Review of Physical Education questionnaire (2018).

# 体育は、恵まれていない生徒及び女子への より平等な身体活動の機会を提供する

学校外での活発あるいは適切な身体活動を行わない生徒

Advantaged students < Disadvantaged students (4.5%高い)

\*体育は多くの生徒にとって、指導者がいて構造化された中での唯一の身体活動の機会

\*男子のほうが女子よりも活発～適切な身体活動に従事している  
例（体育の中で最も取り扱われている球技での活動状況）



Gender equality (男女平等), inclusiveness (共生) の実現に向けた体育

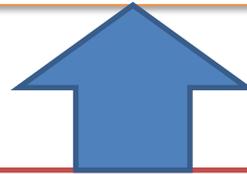
(OECD, 2019b: 46)

# Chapter 4

21世紀に向けた体育の  
今日のチャンレンジと  
これからの方向性  
より

「ダイナミック」で「インクルーシブ」な  
体育と健康教育

エージェンシーモデルの効果的な実施



知識ベースで蓄積された  
カリキュラムデザインに関する共通原理

OECD Future of Education and Skills 2030  
Project の実施を通して

我が国の場合

# 育成を目指す資質・能力の三つの柱

学びを人生や社会に活かそうとする  
学びに向かう力・人間性等

どのように社会, 世界と関わり,  
よりよい人生を送るか

誰に何をどのように → **誰が**何をどのように

何を理解しているか  
何ができるか

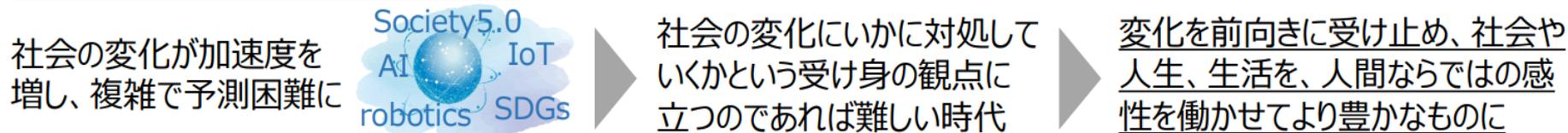
生きて働く知識・技能

理解していること・できる  
ことをどう使うか

未知の状況にも対応できる  
思考力・判断力・表現力等

# 新学習指導要領とGIGAスクール構想の関係

## 2030年の社会と子供たちの未来 (平成28年12月中央教育審議会答申から抜粋)



## 平成29年、30年、31年学習指導要領

**前文** これからの学校には、(略) 一人一人の児童(生徒)が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。

育成を目指す資質・能力の三つの柱

資質・能力の育成

・各教科等で育成を目指す資質・能力の育成  
・言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成等

学びに向かう力、人間性等



授業改善

知識及び技能

思考力、判断力、表現力等

学習指導要領 総則  
第3 教育課程の実施と学習評価

主体的・対話的で深い学び

一体的に充実

学習指導要領 総則  
第4 児童(生徒)発達の支援

個別最適な学び(教師視点では「個に応じた指導」)、協働的な学び

主体的・対話的で深い学び、個別最適な学び及び協働的な学びに生かす

**GIGA※スクール構想(1人1台端末・高速ネットワーク)** (カリキュラム・マネジメントにおける物的な体制整備に位置付けられる。)

教育・学習におけるICT活用の特性・強みを生かし、新学習指導要領の趣旨を実現するため重要な役割を果たす。

※Global and Innovation Gateway for Allの略

# 体育の「見方・考え方」

生涯にわたる豊かなスポーツライフを実現する観点を  
踏まえ,

運動やスポーツを,

その価値や特性に  
着目して,

楽しさと喜びとともに体力の向上に果たす役割の視点から  
捉え,

自己の適性等に応じた『する・みる・支える・知る』の多様な  
関わり方と  
関連付けること

と整理することができる。

# 体育の「見方・考え方」

生涯にわたる豊かなスポーツライフへ

三つの資質・能力を関連付けながら育成

運動やスポーツ

する みる 支える 知る

価値や特性

楽しさ, 喜び,  
体力の向上

生涯にわたる豊かなスポーツライフに向けて

# 体育

運動やスポーツの特性や魅力を実感したり、  
運動やスポーツが多様な人々を結び付けたり、  
豊かな人生を送る上で重要であると認識する

各種の運動やスポーツが有する楽しさや喜び、  
高まる体力などの視点から、  
自己の適性等に応じた多様な関わり方を見出す

体や技能の程度、年齢や性別及び障がいの有無等にかかわらず、  
運動やスポーツの楽しみ方を共有する

ことができる

令和2・3・4年度

福岡県体育研究所  
調査研究報告書

## 共生を基盤とした体育の授業づくり

令和5年3月



Fukuoka Research Institute Of Physical Education 

[www.taiikukenyusho.ed.jp/service.html](http://www.taiikukenyusho.ed.jp/service.html)



#90450087

(福岡県体育研究所, 2023)

# 共生を基盤とした体育の授業づくり

児童生徒同士で考えや  
アドバイスを伝え合う場面  
をどう設定したらいいの？



ゲームに負けると  
文句を言ったり、  
運動が苦手な人の  
ことを責めたりする  
児童生徒がいる…



技能差や体力差が  
あるときって、  
どんな工夫をしたら  
みんなが楽しめるの？



ゲームになると  
勝負にこだわり過ぎて、  
周りに協力しようと  
しない児童生徒がいる…



ゲームになると  
ミスした子を責めたり、  
腹を立てたりする  
児童生徒がいる…



## 全ての子どもが楽しむ授業とは？ 解決のヒントがこのウラに！

- 1 共生社会に求められる体育とは？ 理論編で分かりやすく解説！
- 2 小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の計30実践を紹介！
- 3 共生体育態度アンケートを使えば、実態が把握できて、伸びも実感！
- 4 「児童生徒が変わった！」実践を通して感じた授業者の声も紹介！

今すぐ体研HPを  
チェック！



福岡県体育研究所  
Fukuoka Research Institute Of Physical Education

## 実践の一部を紹介！詳しくは体研HPをチェック！

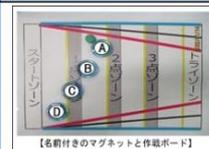
### 排除雰囲気



(上) 男女で一緒に考え、選択した練習に取り組むフットサル  
(下) 技能差や男女差にかかわらず、全員で取り組むシクロマット



### リーダーシップ



【名前付きのマグネットと作戦ボード】

(上) 自他の考えを可視化できる作戦ボードの活用  
(下) 互いの意見を聞き合い、認めようとする姿



「コートを広げると、スペースができて、パスが回しやすくなるよ。」  
「いいね、広いコートを選びたいな。」

### ちがいの受容



(上) 技能差に応じてボールを選択できる教員の工夫  
(下) 男女差にかかわらず、全員が楽しめるルールの工夫



【図3】ホームランゾーンを分けたフィールドと守備時の配置例

### 過度な勝利志向



打者と走者の役割を分けた攻撃の様子

(上) 協力することで誰もが得点することができるルールの工夫  
(下) 思考を促しながら、協力して取り組むドリルゲーム



### 失敗への排斥

- ①ウォーミングアップ
- ②めあての確認
- ③練習タイム
- ④ゲームタイム
- ⑤キラリタイム  
(よさを振り返る時間)
- ⑥振り返り

(上) チーム活動と互いのよさを振り返る時間を設定した学習過程の工夫  
(下) 互いに教え合い、チームの中間の目標達成を共に喜ぶ姿



「やった！当たった。運くまで頼んだね。」

全ての実践を  
今すぐチェック！



遠慮はしない。配慮はしよう！

# ウェル・ビーイング(Well-being)

肉体(身体)的, 精神(心理)的, 社会(福祉)的に「満たされた状態(広義の健康)」  
=持続的ウェル・ビーイング(「幸せ」「いきいきとした状態」)

## 狭義の健康(肉体・身体的) 医学的ウェル・ビーイング

- ・医学系では, Well-beingを「健康」と訳す傾向
- ・健康診断やメンタルヘルスの質問紙調査で測定可能(客観的)な領域

## 幸福(精神・心理的) 心理学的ウェル・ビーイング

- ・心理学系では, Well-beingを「幸せ」「幸福」と訳す傾向
- ・現在の気分のよしあし, 快/不快等の主観的な感情の領域
- ・Happiness, 楽しい, 嬉しい
- ・Subjective well-being(主観的幸福感)

## 豊かさ(社会・福祉的) 福祉的ウェル・ビーイング

- ・SDGsや福祉系学会では Well-beingを「福祉」と訳す傾向
- ・ウエルフェアは元来「福祉」や「豊かさ」を意味する言葉であり, 国家が全ての市民に最低限の幸福と社会的援助を提供するという理念(受動)
- ・社会的な弱者が能動的にウエルフェアを獲得できるのが福祉的ウェル・ビーイング

身体活動による教育  
(運動を手段として健康を目指す体育)

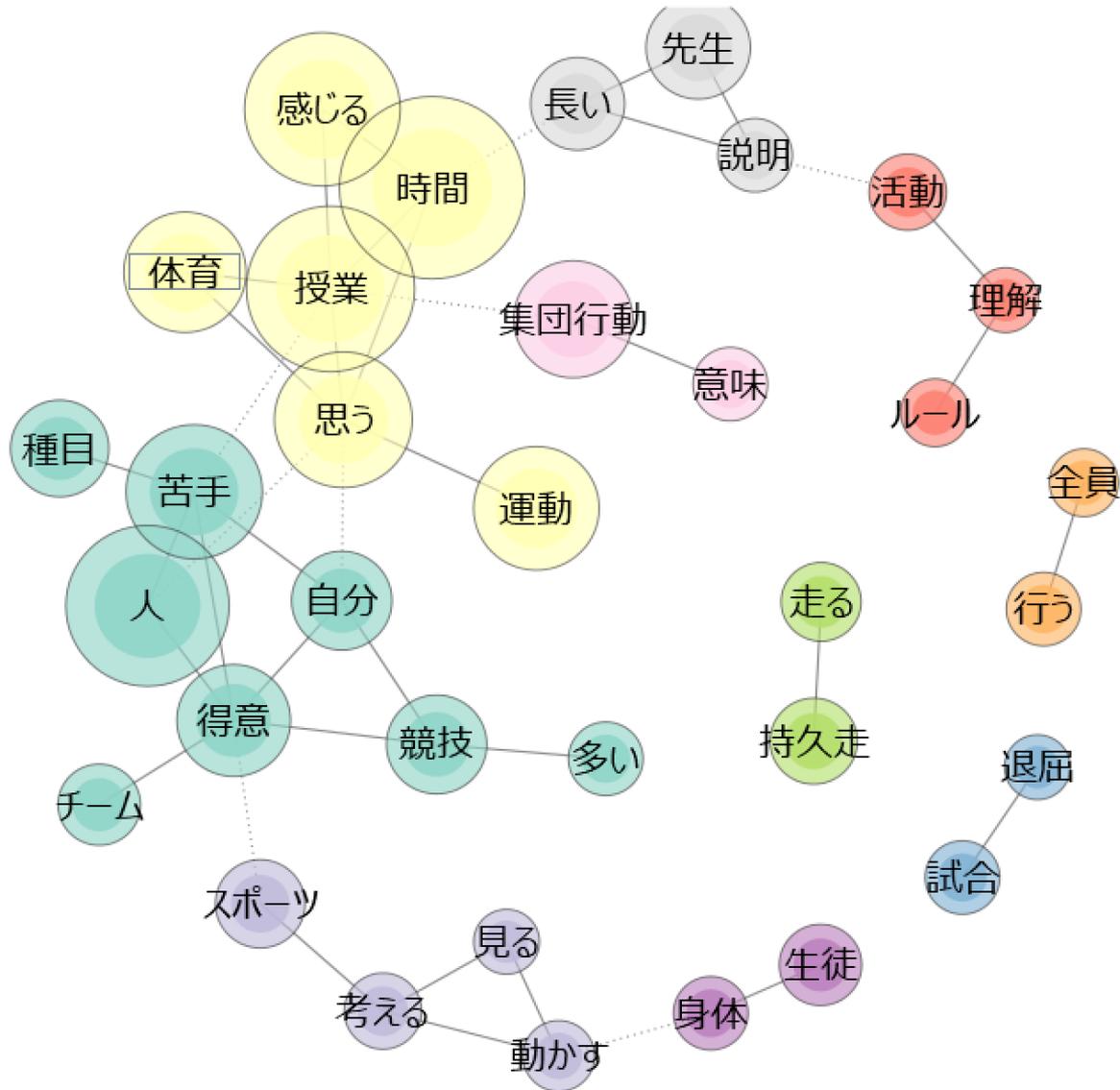
楽しい体育(運動を目的とした生涯スポーツを目指す体育)

共生体育(全ての学習者が包摂し合い, 豊かなスポーツライフを目指す体育)

体育の志向

小学校, 中学校, 高等学校の  
12年間で, 体育の授業を  
受けてきた大学生・大学院生  
250名に体育の授業を受けて,  
「**無駄**」だと思ったこと  
を聞いてみました。

# 体育の授業を受けてきて「無駄」だと感じた点 N: 250

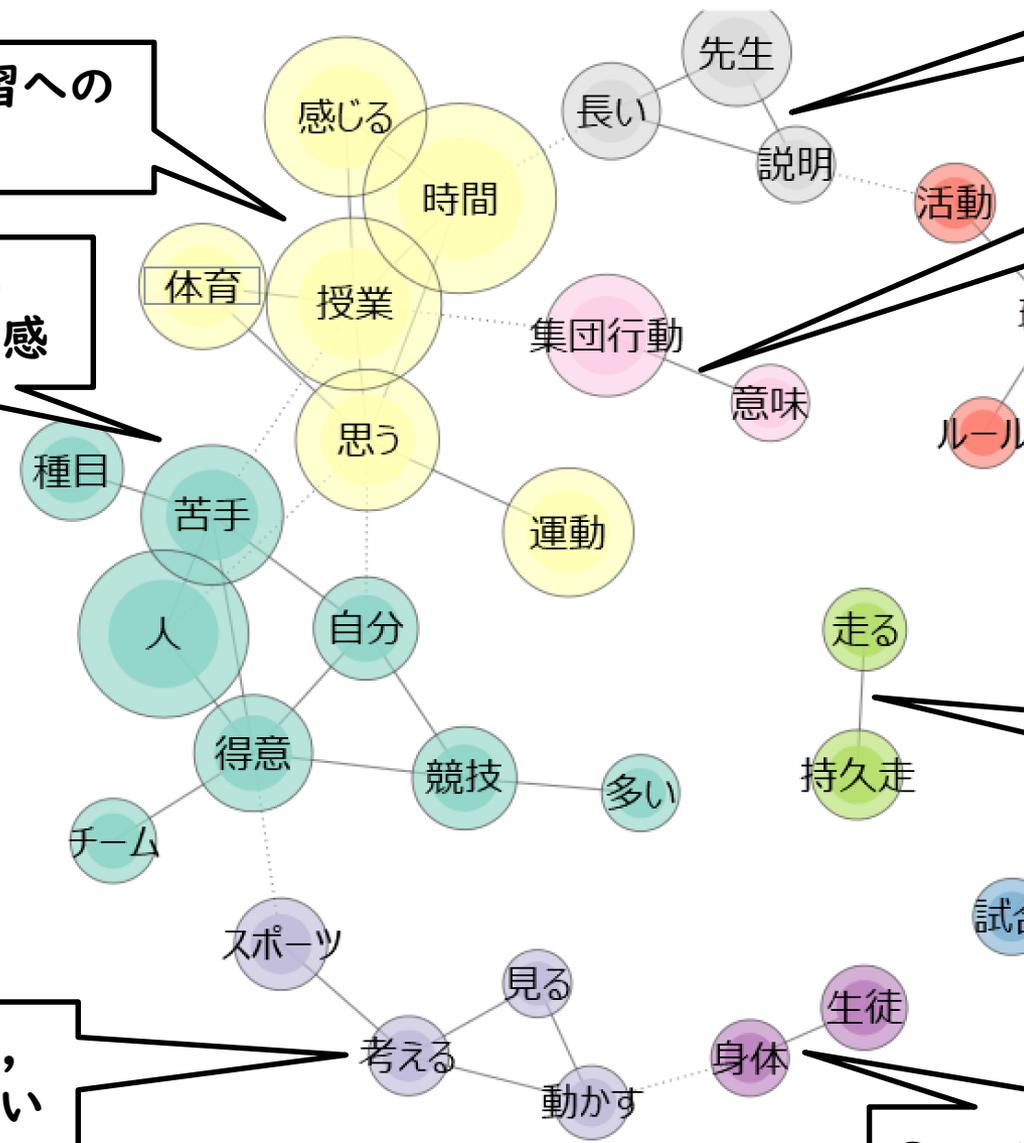


# 体育の授業を受けてきて「無駄」だと感じる点 N: 250

① 非効率な学習への  
取り組み

② 技能差による  
疎外感・無力感

③ 見られる辛さ、  
見てもらえない  
虚しさ



④ 教師の長い説明

⑤ やる意味がわ  
からない集団行動

⑥ 目的、目標  
ルールがわ  
からない中での  
活動

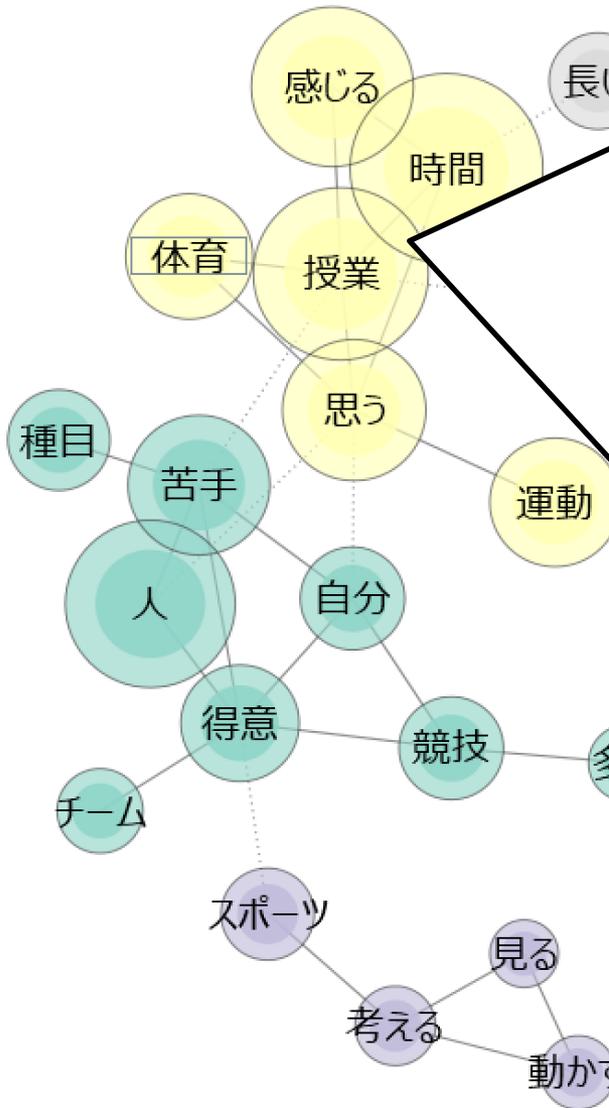
⑦ 画一的な  
取り組み

⑧ やる意味が  
わからない  
持久走

⑨ 技能差による退  
屈感

⑩ 運動嫌いによる抵抗感

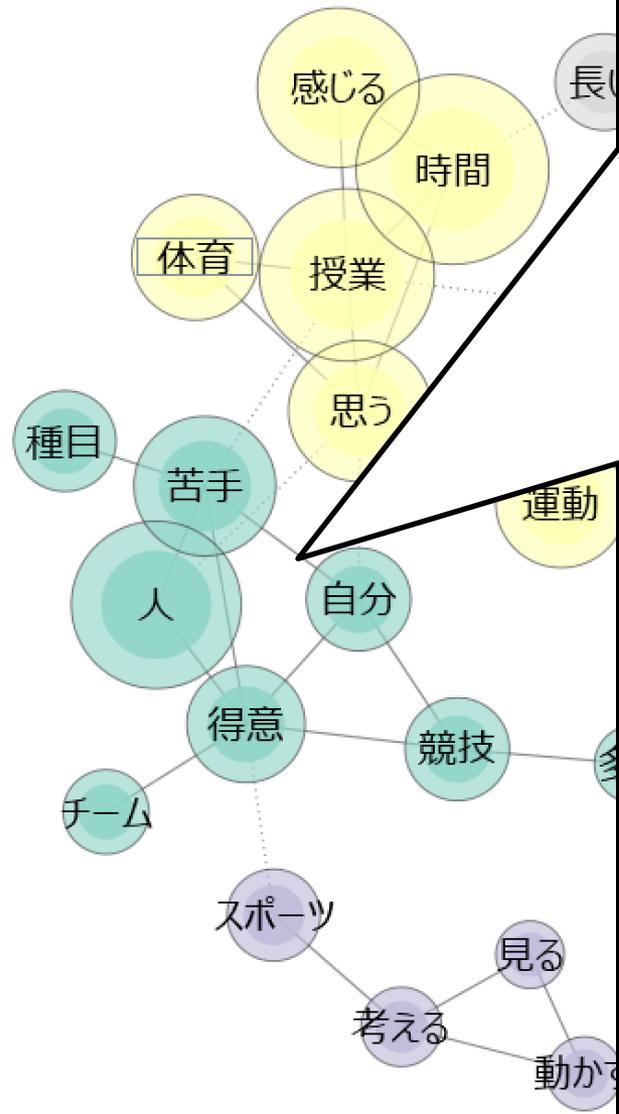
# 体育の授業を受けてきて「無駄」だと感じる点 N: 250



## ① 非効率な学習への取り組み

- ・説明をずっと聞かされていた時間は無駄だと感じた。
- ・何か少し説明するたびに、道具を片付けて集合させる先生がいた。活動する時間を増やしたかった。もっと効率よく指示や説明はできないかとずっと無駄に感じていた。
- ・座って説明を聞いている時間。模造紙に示したり、端的にわかりやすく言ったりして、もっと活動時間をとってほしかった。
- ・自分のレベルに合っていない動きや技をするとき、まだAができていないのに、Bができるわけじゃないじゃん。だったらAを練習する時間がほしい。
- ・全員一斉型の補強運動や鉄棒等の成果発表時間。個別の指導が充実していなかった。
- ・ゲームの時間が長すぎて、肝心な基礎ができていないので、ゲームをしても楽しくない時。

# 体育の授業を受けてきて「無駄」だと感じる点 N: 250

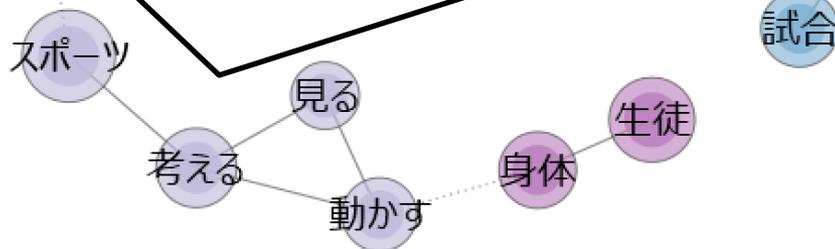


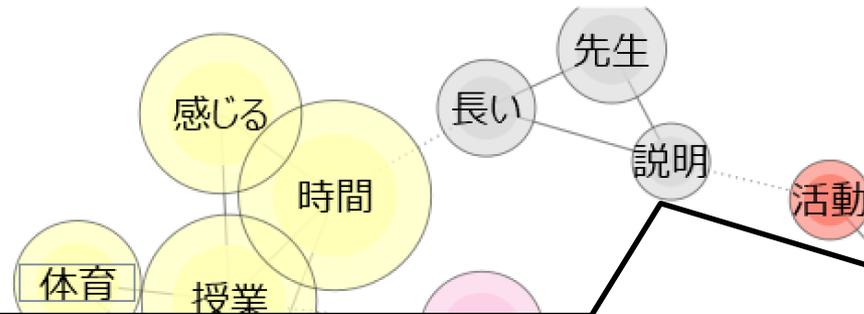
## ② 技能差による疎外感,無力感

- ・チーム対抗で,点数に差が出てしまったり,得意・不得意でゲームにならなかつたりすると空気が重いし,楽しくなくなっていました。
- ・苦手なスポーツの授業で,得意な人ばかりで授業が進んでいった。
- ・ゲーム形式重視の授業をする先生がおり,競技におけるポイントが理解できていなかった。得意な人はポイントをつかみやすいと思うが,不得意な人にとっては何をすればよいのかわからず,体育や運動をすることが嫌いになるのではと思った。
- ・スポーツが得意なのに,苦手な子に合わせてゲームをするとき。

## ③ 見られる辛さ, 見てもらえない虚しさ

- ・「見てくれている」という感覚が全くなく, 私のような普通のレベルの人はみんな成績が同じだった。何を見ているのだろう, 何をさせられているのだろうという感覚だった。
- ・ケガをして見学だったとき
- ・苦手のできなのに, 器械運動や柔道のテストをクラスの皆が見ている前でやらされること
- ・スポーツが苦手で, チームを決めるときもいつま周りから嫌な目をされながら体育のじいう業を過ごした。
- ・簡単にはできない動きに挑戦したいのに, それを行ってしまうと, 先生や他の生徒から冷ややかな目で見られることがかなり多かったことが授業をつまらないものにした。

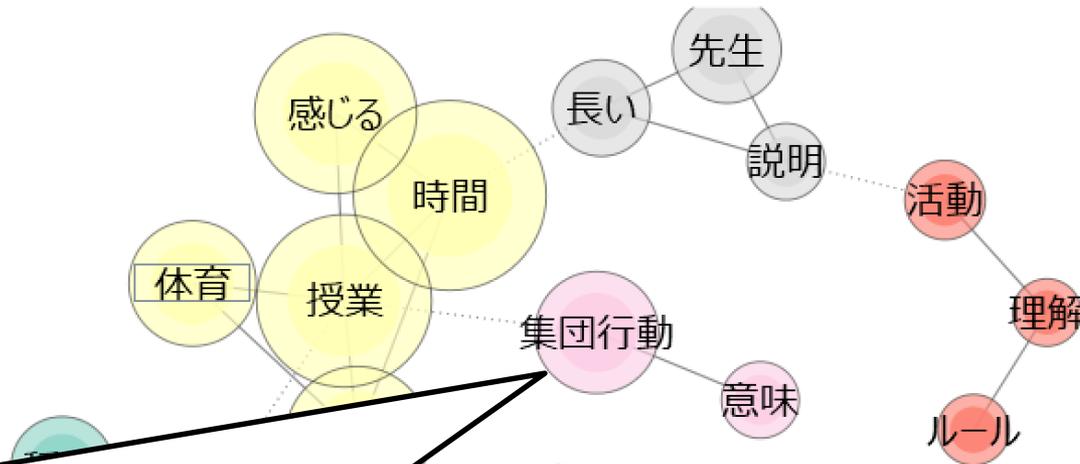




## ④ 教師の長い説明

- ・先生の説明が長かった。
- ・先生の長すぎる話。
- ・先生の説明がすごく長い授業はとても退屈に感じ、無駄な時間だった。
- ・先生の話が長くて、運動をする時間がすくない授業もあった。
- ・先生の話が長すぎて、この時間は本当に必要か?と感じた。

# 体育の授業を受けてきて「無駄」だと感じる点 N: 250

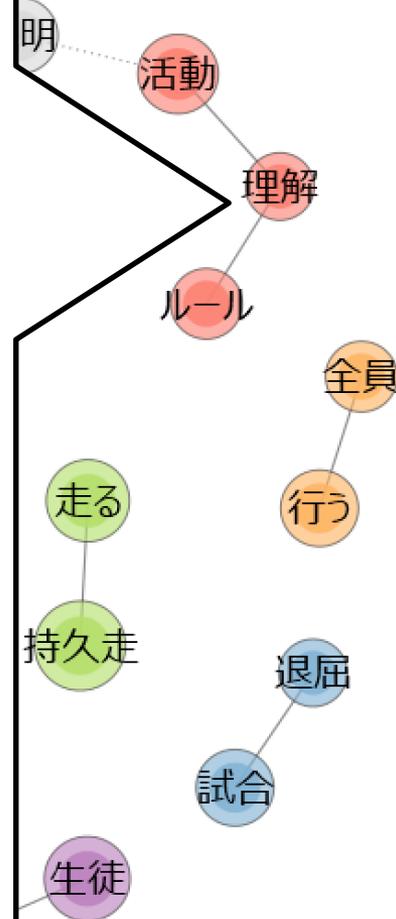


## ⑤ やる意味がわからない集団行動

- ・集団行動を体育でやる意味がわからなかった。
- ・高校に入学してずっと集団行動で、同じことを何度も何度も合格するまで行わされたが、こんなに繰り返し繰り返し長い時間をかけて完璧になるまでする必要があるのかと思った。
- ・集団行動をやっていたが、どういう意図があって行っていたのか全くわからなかった。
- ・毎年度、繰り返される集団行動にどれほどの意味があったのか疑問視していた。

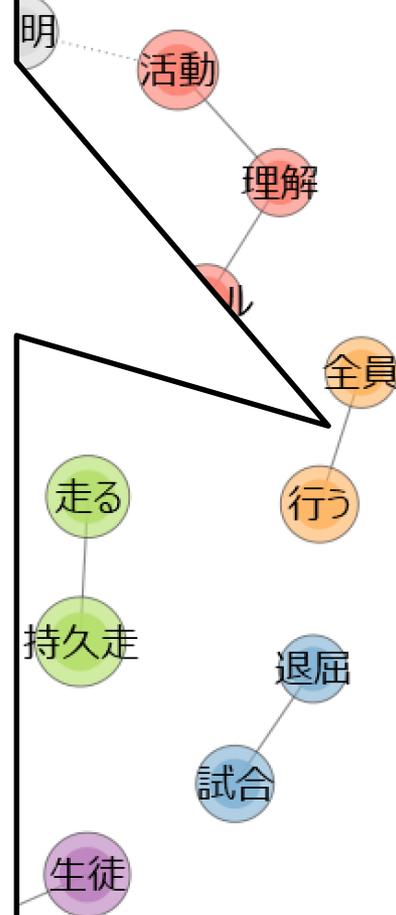
## ⑥ 目的, 目標, ルールがわからない中での活動

- ・ルールを全員が理解していなくて, ゲーム中にもめることがあった。
- ・ルールがはっきりをしていないところがあって, そこでもめてゲームが中断したとき時間の無駄に感じた。
- ・特にくわしい説明もなく, ただずっとゲームを繰り返し行うだけの授業は, 成長もなく同じことの繰り返しになってしまっていた。
- ・毎回, 同じ内容の運動が繰り返されると, 飽きがきてしまい, 意義を見出しにくくなることがあった。もっと多様な活動やゲームがあればより楽しめたと思う。



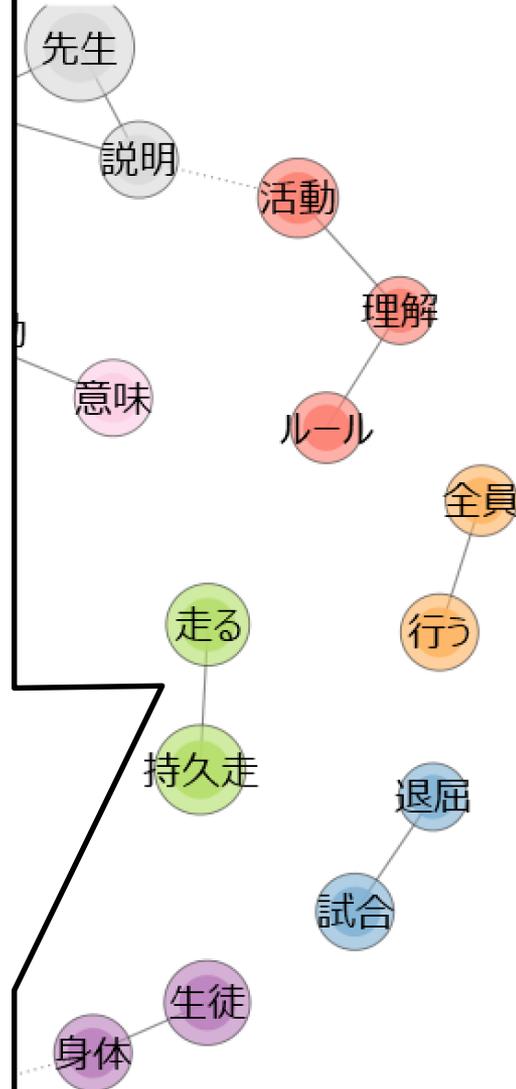
## ⑦ 画一的な取り組み

- ・全員で合わせて行う準備運動や号令走。
- ・体育の授業が始まる前,校庭を何周か走らなければならなかったときに,授業が始まる時間になっても,全員が走り終わるまで授業が始まらなくて退屈だった。
- ・全員が同じレベルでの競技を行うことが多かったため,できずことをずっとやらされている感が強く,無駄な時間だなと感じていた。
- ・「あなたたちが全力を出すと,みんなが楽しくなくなるから手加減をなさい」という圧力が体育をつまらなくしていた。



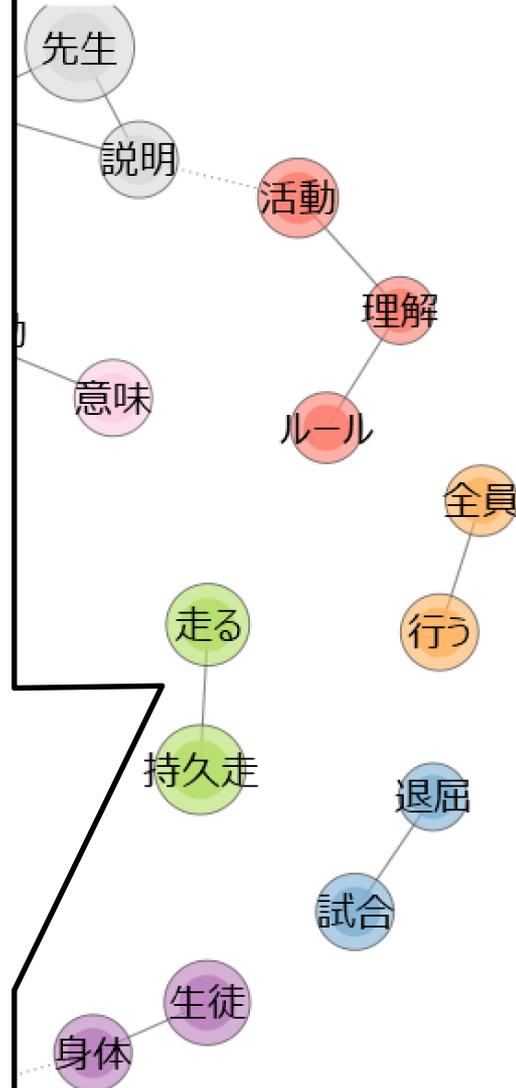
## ⑧ やる意味がわからない持久走

- ・持久走で持久力がついたと思わないし,チーム力等つかないと思う。
- ・苦手な人や嫌いな人に無理やりやらせていたこと。
- ・やたら長く走らせる。30分間永遠にコースを走る。
- ・寒い日にする持久走で,ジャージを着てはいけなかったこと。
- ・持久走はなんの意義があってやっているのか意味がわからなかった。体力づくりであれば,他の種目でもいい気がするが,あんなに長期間やる必要はないと思った。



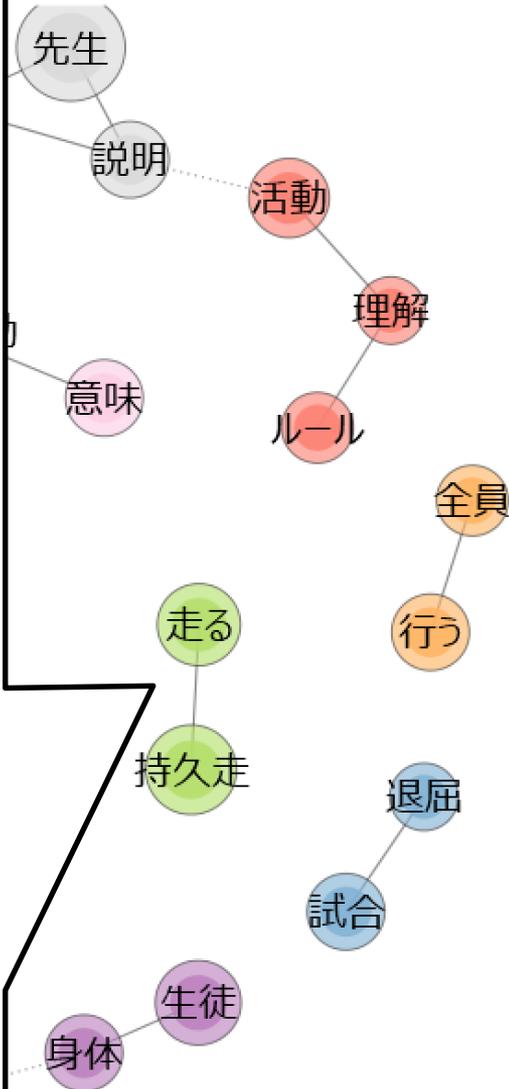
## ⑨ 技能差による退屈感

- ・得意な人や経験者だけでゲームを成り立たせていることがあって、他の人にパスを回さなかったり退屈なことがあった。
- ・男女で競技をする際、思い切りプレーをすることができなかったし、見てても退屈だった。
- ・できる人ができない人にレベルを合わせるとなると、ちょっと退屈する。
- ・種目選択があったが、自分の希望にならなかったなので、退屈だった。
- ・バレー部だけでパスを回しているときは退屈だった。



## ⑩ 運動嫌いによる抵抗感

- ・身体を動かしたってよいことはほとんどない。
- ・感覚的に身体を動かすだけで、ある程度他者よりう運動ができているという評価をなされてきた人間（教師）が、感覚的に身体を動かせば他者に敗北し続け、嘲笑され、努力して理論を構築しても基礎的な運動はできず、周りと同じ運動をするための持久力もなく、運動に関わる努力を超えて辛酸を舐め続けてきた生徒に出会ったとき、どのようなアプローチをすることができるのかということを考えなければ、そのような生徒にとって体育の授業はすべて無駄な時間となる。

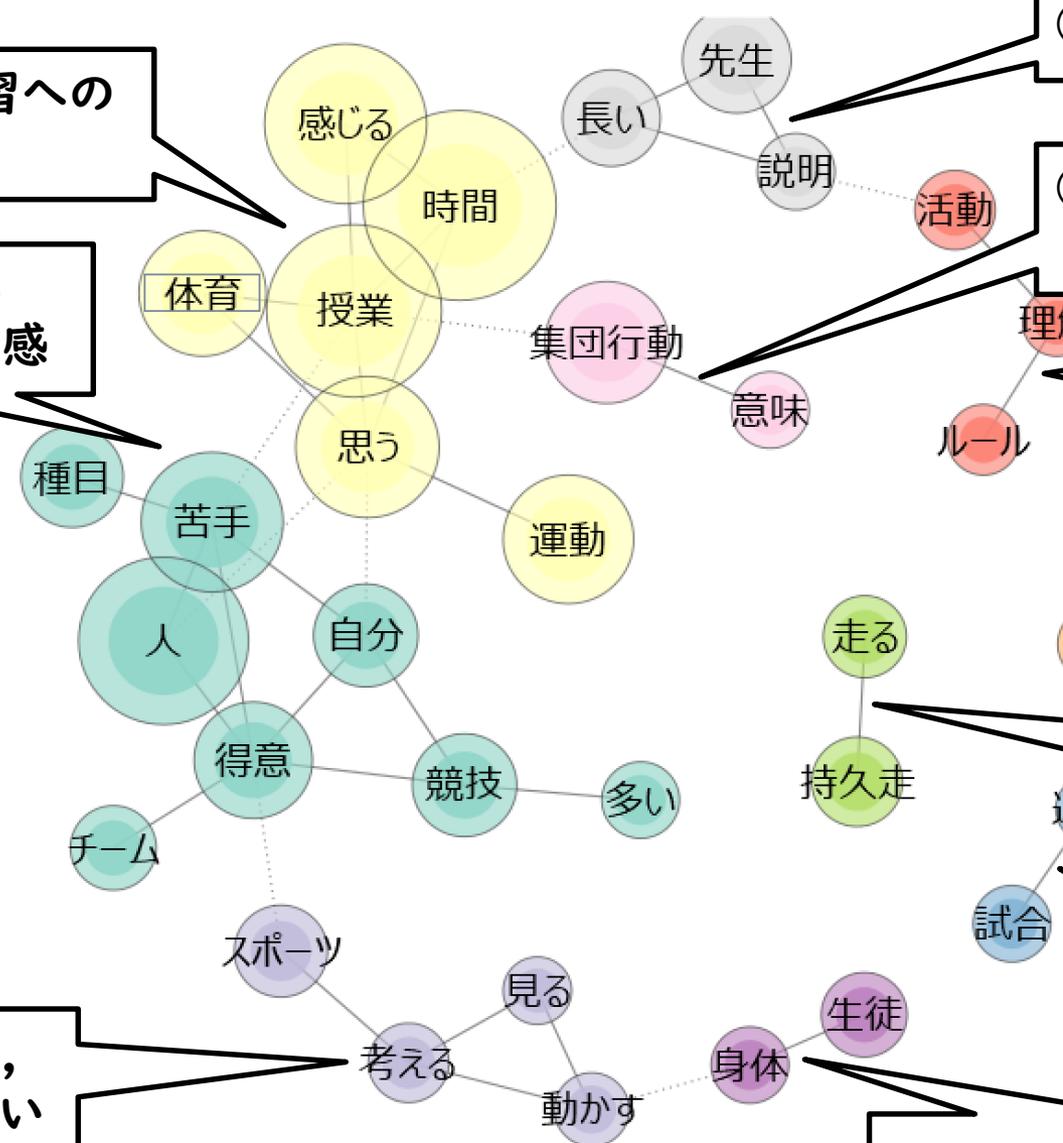


# 体育の授業を受けてきて「無駄」だと感じる点 N: 250

① 非効率な学習への  
取り組み

② 技能差による  
疎外感・無力感

③ 見られる辛さ、  
見てもらえない  
虚しさ



④ 教師の長い説明

⑤ やる意味がわから  
ない集団行動

⑥ 目的、目標  
ルールがわから  
ない中での  
活動

⑦ 画一的な  
取り組み

⑧ やる意味が  
わからない  
持久走

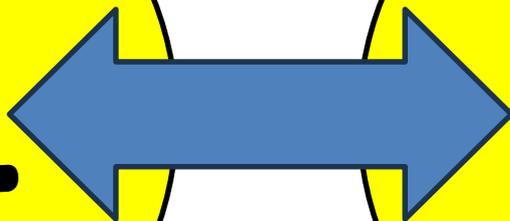
⑨ 技能差による退  
屈感

⑩ 運動嫌いによる抵抗感

# 多様性と包括性を実現する 協働の体育授業：

Learning Compass 2030や  
学習指導要領に基づく  
「共創体育」の設計と実践

共生



共創

# 現代社会が求める学びの姿

少子高齢化, AI社会,  
パンデミック, 格差拡大, , , ,  
未来は予測困難



答えのない時代に向き合い, 他者  
と協力しながら価値を生み出す  
人材(の育成)

# ダイバーシティと教育機会の平等

現代・これからの学校現場で直面する多様性

学力や体力の  
個人差

性的マイノリティ  
(LGBTQ+)

外国にルーツを  
もつ児童・生徒

経済的背景の  
違い

障がいのある  
児童・生徒

etc,,,

# 体育の役割

単なる体力・運動能力の向上ではなく、身体を通じた「社会的学びの場」としての再構築

チームワーク, 多様性の尊重, 公正な意識決定等, 民主主義的価値の体得

# 共創 (Co-creation) とは

ビジネス, 福祉, まちづくりなどでも注目されている  
概念。相互尊重に基づく価値創出

異なる立場, 背景, 価値観をもつ  
他者と協働しながら, 新たな価値  
や意味を創り出していく社会的な  
プロセス

# 共創体育とは

児童・生徒同士, または教師, 地域社会, 家庭といった多様な関係の中で, スポーツや身体活動を「共につくる」ことを通じて, 学び合い, 育ち合う実践

# 共創体育の理念

体育を「型を習得する場」ではなく、生徒・教師・地域が協働で「型を創り出す場」とする

## 共創体育が目指す3つの柱

包括的 (inclusive) であること

体力差, 性差, 文化的背景, 障がいの有無などを超えて, 誰もが参加できる

対話的 (dialogic) であること

お互いの思いや考えを言葉と身体で聴き合い, 関係性を築く

創造的 (creative) であること

新しいルールや動き, 価値感をゼロからつくることに挑戦する

# OECE 変革をもたらす資質・能力との関連性

## ●新たな価値の創造

例：誰もが参加できる新しいスポーツのルールを  
考案する

## ●対立やジレンマへの対処

例：チーム間での意見の衝突を乗り越えてルールを合  
意形成する経験

例：勝敗や公平性をめぐる多様な価値観に向き合う

## ●責任のある行動をとる力

例：チーム間での意見の衝突を乗り越えてルールを合  
意形成する経験

例：勝敗や公平性をめぐる多様な価値観に向き合う

# 発達的特徴を踏まえて

## 小学校

- ・「遊び」から「ルールのある運動」への移行期
- ・他者と関わることを通して、社会性、共感性、調整力が芽生える時期

## 中学校

- ・自意識が強くなり、「うまい、下手」への意識が高まる
- ・仲間との関係性が生活や学習に大きな影響を与える時期

## 高等学校

- ・自己の生き方を考える思春期後期にあり、「なぜ学ぶのか」に敏感
- ・自律的な思考や探求的姿勢を伸ばすチャンス

## 共創体育のモデル授業例：活動設計 「みんなでつくる,新しい運動(遊び)」

### 目標

- ・他者と協働して活動内容を構想し,実現する力を育てる
- ・多様な意見を尊重し,調整,創造する力を養う

### 導入段階

- ・活動の事例を紹介し,発想を刺激(例:「こんな運動を見たことある?」)
- ・グループで「こんなスポーツがあったら面白い!」アイデアを出し合う

### 開発段階

- ・活動のテーマやルール,必要な道具,人数,勝敗の決め方などを決定
- ・試行と調整を繰り返しながら,プロトタイプ運動を構築

### 実施段階

- ・他のグループと相互に創作運動を体験し合う
- ・「面白さ」「改善点」「思いやり」など,多面的な視点でフィードバック

### 振り返り段階

- ・ワークシートやタブレットを使って,活動の意味や自分の役割を内省
- ・グループで「私たちの共創は何を生み出したか?」を語る時間を設ける

# 活動例と教師の工夫

- ・身近な道具（新聞紙、風船、段ボール等）を使ってオリジナルゲームを創作
- ・各グループが新しい跳び方を発明し、リレー形式で披露
- ・「誰でも楽しめる運動」「ルールを考えるって面白い」という実感とともに運動への自発性を高める
- ・体育的行事に向け、「オリジナルスポーツを企画・運営」、ルブリックや動画マニュアルを制作

- ・既存のルールを「変えていい」という余白を子供に与える
- ・「うまくできるか」ではなく、「みんなでつくること」を価値とする評価観を共有する
- ・技能の向上の前に、「関わり合いを楽しむこと」を目的化する
- ・正解を求めたり、「こうしなさい」を提示せず、「問い」を投げかける
- ・体育を、過度な競争ではない「協創」「共創」の場へ

# 共創体育の実現によって期待される学習者の変容

## ●主体性の発現

- ・「何をしたら楽しいか」「どうすればみんなができるか」を自ら考えるようになる→（失敗しても）面白かった！
- ・教師の指示ではなく、自分たちの「つくる意思」が活動を駆動する

## ●協働性の深化

- ・アイデアのすり合わせ, 役割分担, トラブルへの対処等
- ・共創を通して, 「共に学ぶこと」そのものが学びの目的になる

## ●多様性への気付き

- ・「得意・不得意」ではなく「違い＝価値」として認識するようになる

## 教師の役割：ファシリテーターとしての姿勢

### ●教える→引き出す

- ・教師が正解を持たず、「どうしたら楽しくなる,面白くなるか?」を一緒に考える
- ・児童,生徒のつぶやきや動きを観察し,言語化を支援

### ●まとめる→開く

- ・「問い」を投げかけて自ら省察させる
- ・「今のルール,もっと面白くするにはどうする?」

### ●導く→任せる

- ・主体性を尊重するために,時には「何もしない勇気」も必要
- ・ただし,安全管理や心理的安全性の担保は不可欠
- ・教師のもつべきマインドセット「完璧でなくていい」  
共に創ることを楽しむ姿勢が子どもに伝わる

まとめに代えて

## 共創体育が授業外での学校生活や社会に開く可能性

- 学校体育は、ただの運動の時間ではなく、「他者ととももの価値を創ることを学ぶ」公共的空間である
- ルールや動きを教えるだけでなく、「どうしたら楽しく、面白くなるか?」といった問を共有できる場へ
- 共創体育の経験は、学校、地域での対話と協働の基盤となる

## 今後の提言

- ・教員養成課程への共創体育の導入：共創型授業の理論と実践モデルを教職課程で学ぶ
- ・授業研究, 公開授業での積極的な実践と共有：実践知の蓄積と, 全国的な知の連携を進める
- ・教科横断的資質・能力の育成の中核に体育を位置付ける：共創体育は, 探求, 協働, 創造を横断的に位置付ける「ハブ」教科となり得る

## 参考文献

福岡県体育研究所(2023) 令和2・3・4年度 福岡県体育研究所調査研究報告書 共生を基盤とした体育の授業づくり,  
[www.taiikukenkyusho.ed.jp/service.html](http://www.taiikukenkyusho.ed.jp/service.html) (参照日2023年4月10日)。

経済協力開発機構(OECD)(編著)日本体育科教育学会(監訳)(2023)保健体育教育の未来をつくるーOECDカリキュラム国際調査(OECD Education 2030 プロジェクト), 明石書店:東京。

前野隆司・前野マドカ(2022)ウェル・ビーイング, 日経文庫。

日本体育学会学校体育問題検討特別委員会(監訳)(2002)世界学校体育サミットー優れた教科「体育」の創造を目指してー, 杏林書院。

OECD (2019a) Future of Education and Skills 2030 Concept Note, [https://www.oecd.org/education/2030-project/teaching-and-learning/learning/learning-compass-2030/OECD\\_Learning\\_Compass\\_2030\\_concept\\_note.pdf](https://www.oecd.org/education/2030-project/teaching-and-learning/learning/learning-compass-2030/OECD_Learning_Compass_2030_concept_note.pdf) (参照日2020年4月10日)。

OECD (2019b) OECD Future of Education 2030 Making Physical Education Dynamic and Inclusive for 2030, [https://www.oecd.org/education/2030-project/contact/Making\\_Physical\\_Education\\_Dynamic\\_and\\_Inclusive\\_for\\_2030.pdf](https://www.oecd.org/education/2030-project/contact/Making_Physical_Education_Dynamic_and_Inclusive_for_2030.pdf) (参照日2020年4月10日)。

梅澤秋久(2022)体育における教師と子どものウェル・ビーイング, 体育科教育, 70 (7):48-50。